

久留米競輪場再整備基本計画 <概要版>



令和5年3月
久留米市 商工観光労働部 競輪事業課

はじめに

久留米競輪場再整備基本計画は、老朽化した久留米競輪場を再整備するにあたっての基本方針を策定することを目的としています。基本方針の策定に際しては、正源氏公園の計画区域の現状と久留米競輪場の関係性を考慮しながら「建築」「ランドスケープデザイン」「ソフト」の3つの視点から検討しました。

この概要版では、主に新しい競輪場に求められる役割、基本方針、施設配置等を記載します。



現在の久留米競輪場



目次

1. 競輪業界全体と久留米競輪場の現状・・・ 1頁
2. 久留米競輪場<施設の現状>・・・ 2頁
3. 久留米競輪場のこれまでの取り組みと周辺の土地利用の状況・・・ 3頁
4. 再整備に関連する主な市の計画・正源氏公園の計画区域とその周辺の現状・・・ 4頁
5. 久留米競輪場の配置計画(案)・・・ 5頁
6. 再整備の基本方針及び施設の整備方針・・・ 6頁
7. 競輪場施設の整備計画(案)・・・ 7頁～8頁
8. 駐車場の整備計画(案)・・・ 9頁
9. 整備費用・スケジュール(案)・・・ 9頁

1. 競輪業界全体と久留米競輪場の現状

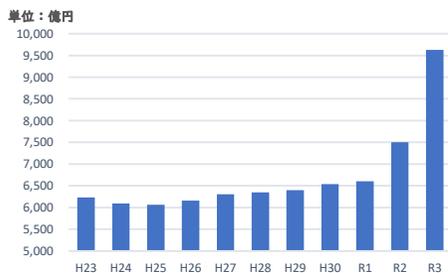
近年の競輪業界全体の売上は増加傾向にあり、久留米競輪場も同様の傾向にあります。売上増の主な要因は、夕方から夜間に行うナイター競輪や原則インターネットでしか車券を購入できないミッドナイト競輪を実施するなど時代のニーズに添えてきたこと、徐々に拡大してきたインターネットによる車券購入がコロナ禍における自宅での巣籠り需要に添えたことなどがあげられます。

しかし、売上は増加しているものの、久留米競輪場への来場者は年々減少傾向にあり、近年はコロナ禍によりその傾向はより顕著になっています。また、久留米競輪場の来場者は高齢層が大多数を占めており、今後も持続可能な収益施設として運営を継続していくためには、多様なニーズに添え、新規の競輪ファンを取り込んでいくことが求められていると言えます。

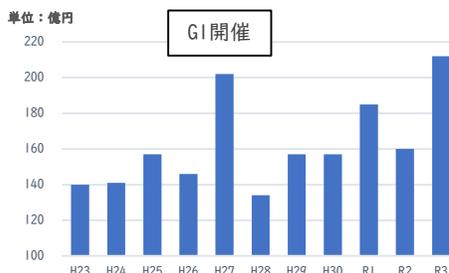
(1) 全国の競輪場の現状と動向

平成3年度をピークに減少してきた競輪業界全体の売上はナイター競輪やミッドナイト競輪の開催に伴い、特に令和2・3年度は、コロナ禍における自宅での巣籠り需要に起因するインターネット投票の大幅な売上増により、約7,500~9,630億円と大きく増加しており、平成26年度以降、8年連続で増加しています。

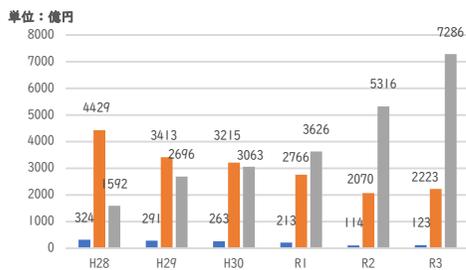
久留米競輪場の売上も、概ね競輪業界全体の状況と同じ傾向となっています。また、販路別売上状況も競輪業界全体の状況と同じく、これまで売上の最も大きな割合を占めていたのは場外売上でしたが、ここ数年はネット売上へ移行していることがわかります。



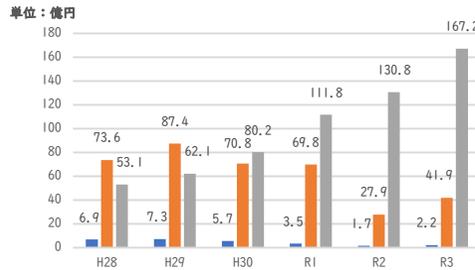
競輪業界全体の年間車券売上推移



久留米競輪場の年間車券売上推移



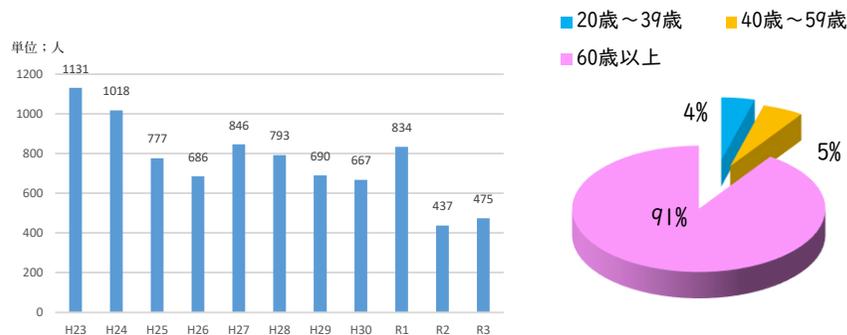
競輪業界全体の販路別売上状況



久留米競輪場の販路別売上状況

(2) 久留米競輪場の来場者の動向

久留米競輪場の来場者数は減少傾向にあります。来場者の大多数は高齢層で、若年層が少ない傾向にあります。

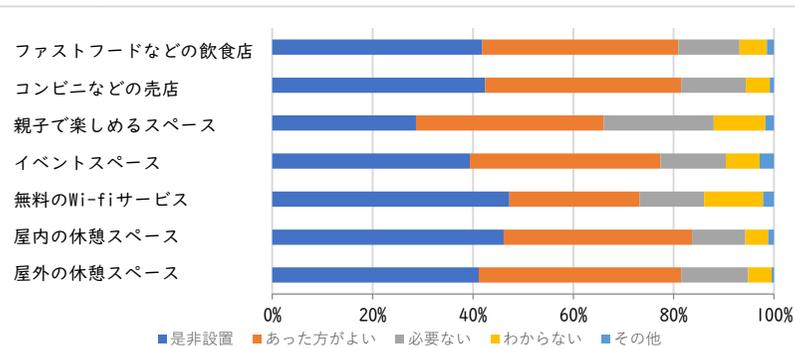


1日あたりの来場者数推移

来場者の世代別割合
(令和2年2月22日(土)15時頃調査より)

(3) 来場者アンケート及びWEBでのニーズ調査 (令和3年12月)

主な調査結果



2. 久留米競輪場<施設の現状>

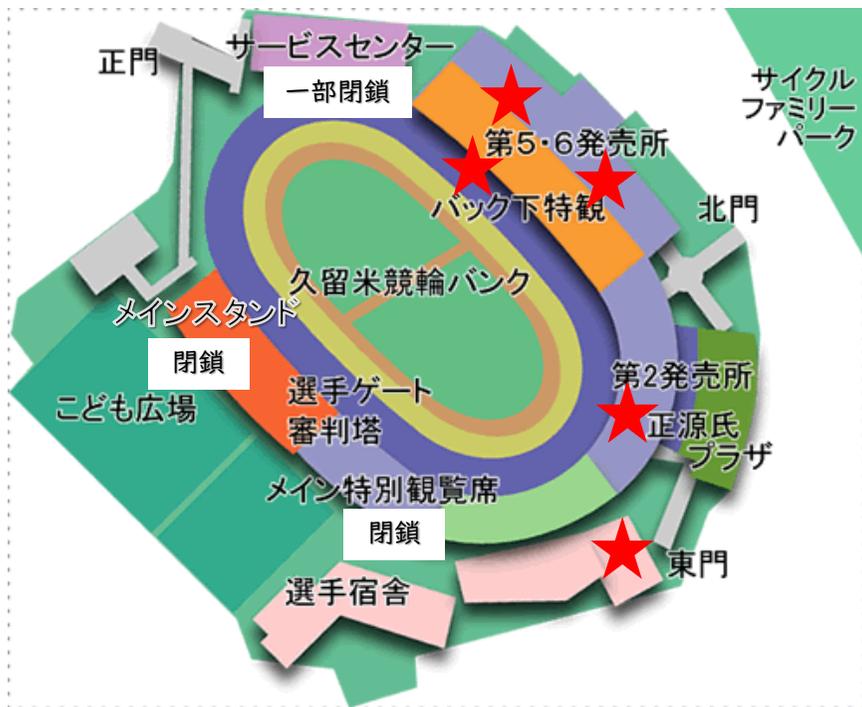
久留米競輪場は昭和24年の開設から令和3年度末までの73年間で約380億円を久留米市の一般会計に繰り入れており、久留米市にとって貴重な財源の1つとなっています。

しかし、施設・設備の老朽化により安全性に著しい問題があります。また、前頁で言及したように来場者数が年々減少していることから施設規模が過大になっており、維持管理費や修繕費の増加が大きな課題になっています。

(1) 施設の現状 (来場者の減少に伴う施設の過大化と施設・設備の老朽化)

施設の多くは昭和40年代に建築されたものです。来場者の安全や機能を確保するため、近年ではトイレ、屋根、非常用発電機、空調設備の修繕などに毎年多額の費用を費やしています。

また、現在の施設は、来場者数がピークであった平成初期に対応した規模(約6,500人滞留)で整備していますが、現在の1日当たりの来場者数は、約400人まで減少しています。そのため施設規模が過大になっており、施設の維持管理費用が収益を圧迫するなど非効率な運営を強いられています。



車券発売所

現況配置図



【メインスタンド】
耐震基準を満たしていないため閉鎖中



【メインスタンド地階】
漏水により天井破損



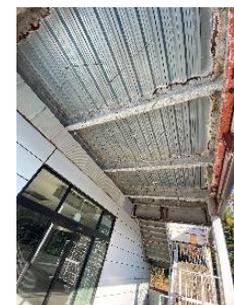
【旧集計センター】
錆びついたトタン屋根



【正源氏プラザ屋上】
錆びついた空調設備



【サービスセンター】
破損した渡り廊下



【正源氏プラザ】
落下した軒天井

3. 久留米競輪場のこれまでの取り組みと周辺の土地利用の状況

平成29年度に中期運営計画を策定し収益を向上させるための経営戦略、施設の最適化及び正源氏公園エリア形成の基本方針を示しました。令和元年度には、競輪有識者の意見をもとに、収益向上基本構想を策定し、競輪事業の収益を向上させる具体的な施策について、ソフト面を中心に短期・中長期別に立案しました。再整備にあたっては、久留米競輪場敷地の土地利用の状況等の把握を行い、各種法令を踏まえて整備を行います。

(1) 再整備に向けたこれまでの主な取り組み

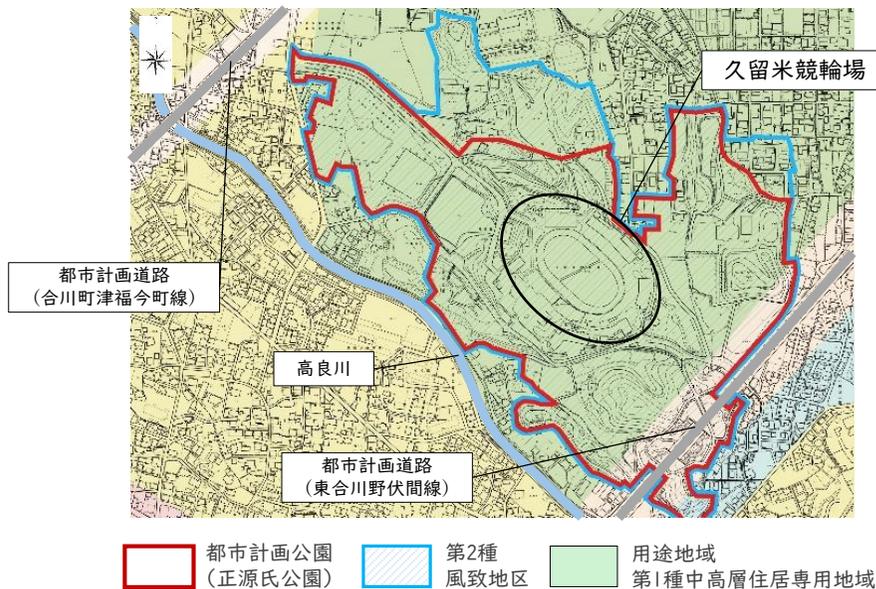
①久留米競輪中期運営計画（平成29年度）

<p>【基本方針1】 自転車を中心とした市民に親しまれるエリアの形成</p>	<p>①立地を活かした市民に親しまれるエリアの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○競輪場周辺エリアに求められる機能 <ul style="list-style-type: none"> ・自転車の利用促進・意識啓発 ・市民全般の休息、レクリエーション等総合的な利用 ○競輪場周辺エリアが保有する資源・機能 <ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史・散策 ・競輪場・駐車場 ・憩い・休息 ・レクリエーション <p>②市民に親しまれる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競輪場施設の多目的化・多用途化 ・来訪者の利便性向上 ・市民に開かれた空間の創出
<p>【基本方針2】 安定かつ継続的に収益を生み出す競輪事業の運営</p>	<p>①短期的売上向上戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備によるサービス付加価値の向上 ・女性向け施設の構築 ・過剰施設の縮減による施設再整備 など <p>②長期的売上向上戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開かれた空間の創出 ・若年層および女性を対象としたイベントによる集客の向上など <p>③施設規模の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最大来場者数 …4,500人 (1日当たり) ・施設収容人数 …1,200人 ・駐車場収容台数 …最大1,920台、通常640台 ・有料席数 …330席

②久留米競輪事業収益向上基本構想（令和元年度）

<p>施策① ミッドナイト競輪の本場開催 施策② 施設規模のコンパクト化</p>	<p>短期施策（1年～3年後）</p>
<p>施策③ キャッシュレス投票運用 施策④ 視聴環境整備・改善 施策⑤ 未経験者来場促進</p>	<p>中・長期施策（4年～10年後）</p>

(2) 久留米競輪場周辺の土地利用の状況



4. 再整備に関連する主な市の計画・正源氏公園の計画区域とその周辺の現状

久留米競輪場の再整備を検討するにあたっては、「久留米市新総合計画第4次基本計画」や、「久留米市緑の基本計画2018」、「久留米市自転車利用促進計画」、「久留米市地域防災計画」等を踏まえて検討します。

正源氏公園の計画区域内には、スポーツ・レクリエーション施設の他に、豊かな自然や歴史遺構などがあります。これらを活用し、それぞれの連携を図ることで、再整備に関連した市の計画に求められている地域共生社会や緑のネットワークの構築を目指します。

(1) 再整備に関連する主な市の計画

まち

- 久留米市新総合計画第4次基本計画
(令和2年度～令和7年度)

「住みやすさ日本一を目指して」

子育て支援や教育環境の充実、地域共生社会の確立、災害に強いまちの形成、交通のポテンシャルを生かした開発の促進、IoTなど新たな技術を活用した地域の活性化など

- 久留米市国土利用計画

環境

- 久留米市緑の基本計画2018

久留米らしい緑を将来に継承、緑の役割を最大限に発揮させるために、久留米らしさの象徴である「水」「緑」「花」を生かした緑のまちづくりやネットワークを推進

- 第三次久留米市環境基本計画(2021～2025)
- くるめ生きものプラン

交通

- 久留米市自転車利用促進計画

防災

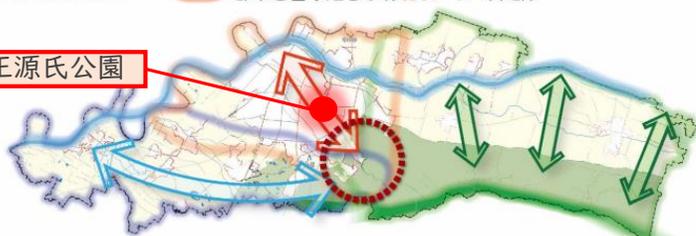
- 久留米市地域防災計画

要素	凡例
水緑花のコア	
水緑花の主要軸	

■緑の都市構造

都市を包み込む水緑花ゾーン(中部)

正源氏公園

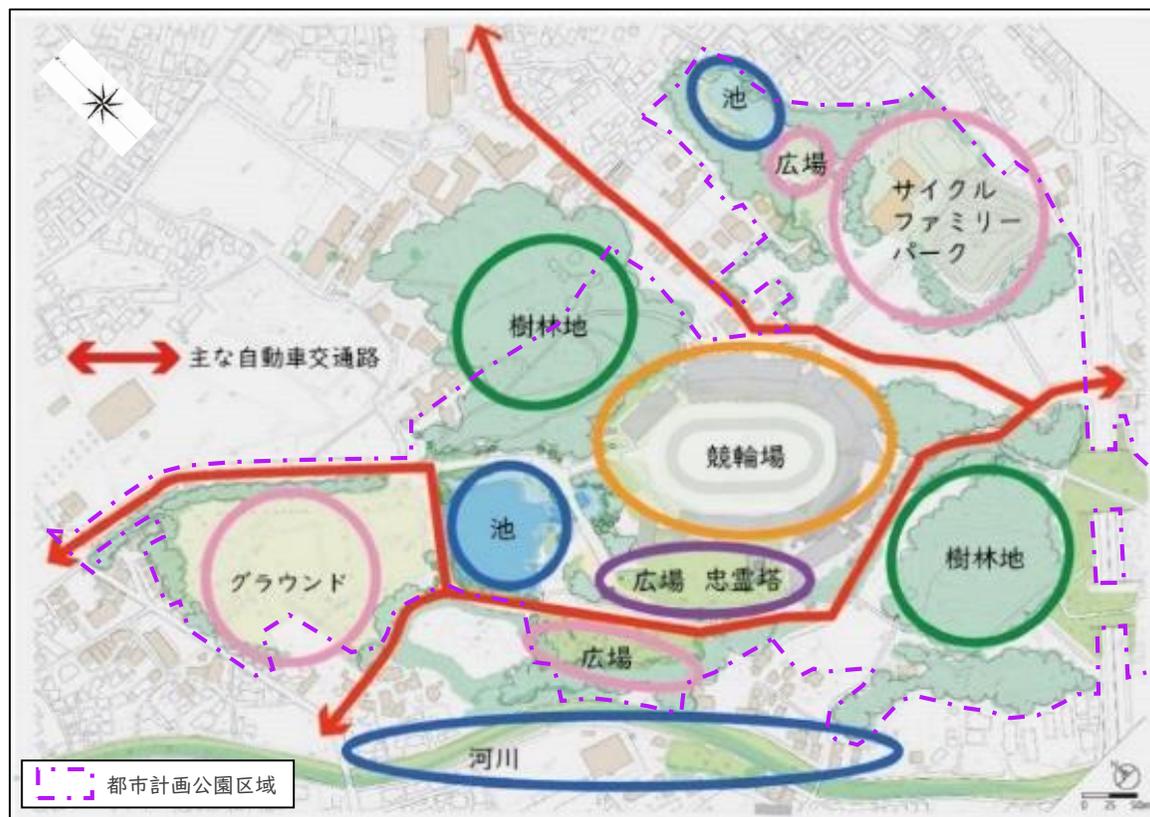


身近な水辺でつながる水緑花ゾーン(西部)

自然のダイナミズムを体感できる水緑花ゾーン(東部)

上図：久留米市緑の基本計画2018より

(2) 正源氏公園の計画区域とその周辺の現状



5. 久留米競輪場の配置計画(案)

正源氏公園の計画区域とその周辺の特徴と各施設の配置方針を基に久留米競輪場の配置を計画します。この配置計画では、来場者にとって、居心地のよいゾーニング計画とします。また、施設の整備方針としては、競輪のみに限らず、スポーツ、自然、歴史、教育など多様なニーズを持った人々が集い、繋がる競輪場を目指します。

(1) 正源氏公園の計画区域とその周辺の特徴

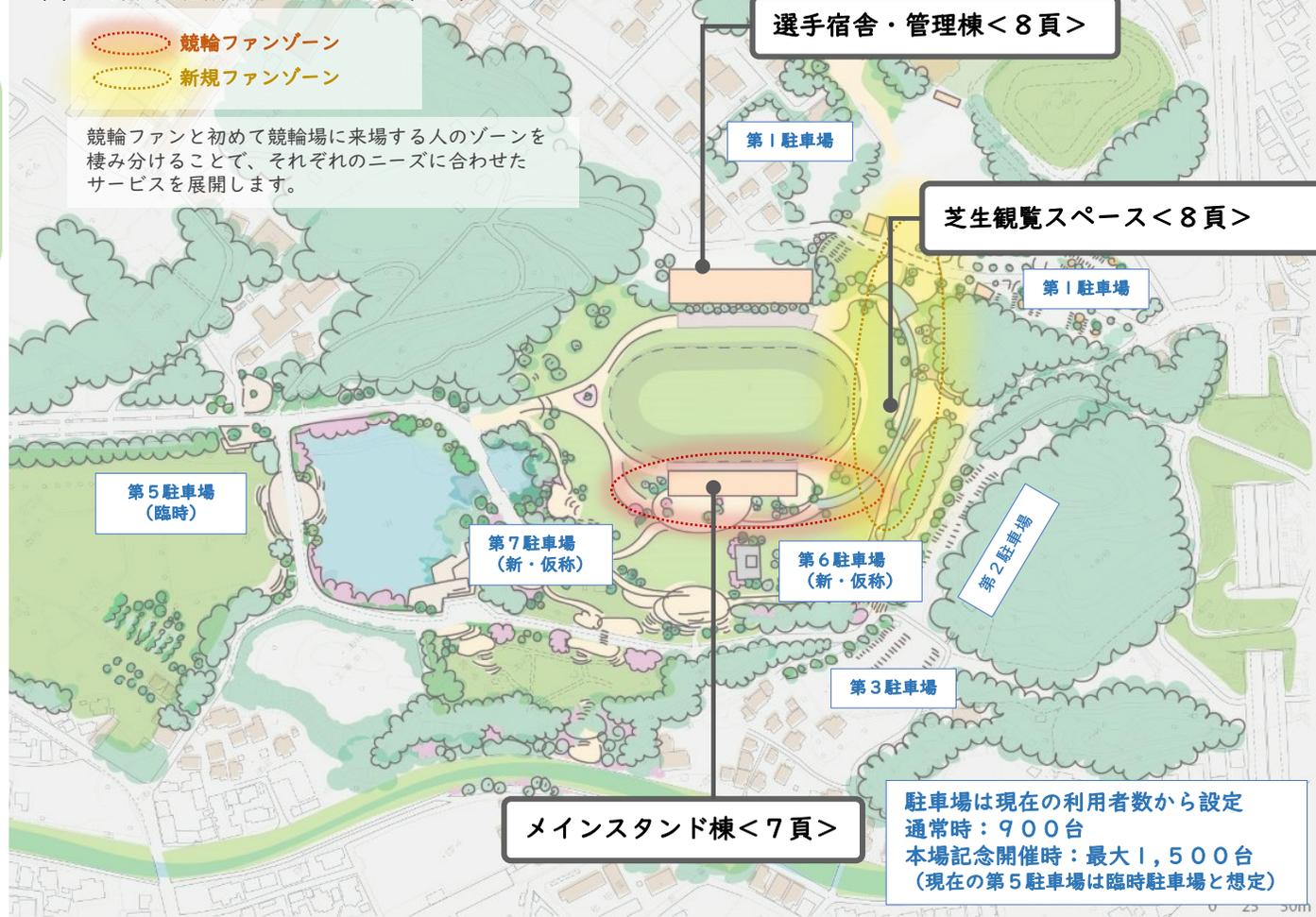
- ・ 閑静な住宅地
- ・ 緑豊かな自然環境
- ・ 池や川などの自然環境
- ・ 起伏に富んだ丘陵地
- ・ 都市計画道路沿いに位置しアクセス良好
- ・ 厳かな雰囲気の歴史遺構

(2) 各施設の配置方針と理由

- バック⇒現状のまま
 - ・ 大きな劣化が見られない
 - ・ 改修をする場合は大きな費用が発生する
 - ・ 改修中はレースを開催できない
- メインスタンド⇒南側に配置
 - ・ 審判機能と運営機能が一体となる
 - ・ 日光が順光となり観覧環境が良好
 - ・ 機能が集約され動線もコンパクトになる
- 選手宿舎・管理棟⇒北側に配置
 - ・ 来場者から離れ選手の安全が確保できる
 - ・ 選手管理機能しかなく必要面積が少ない
 - ⇒建物高さを低くでき、北側の住宅への日照を確保できる

※バックの直線がホーム側とバック側にあり、カント（傾斜角度）により平坦部分の長さに違いがあるため、決勝線の場所を変更することはできない。

(3) 久留米競輪場 施設配置計画案



6. 再整備の基本方針及び施設の整備方針

(1) 再整備の基本方針 「PARK in KEIRIN -競輪場に公園の価値を創る-」

久留米競輪場の再整備を検討するにあたっては、正源氏公園の計画区域にある資産（豊かな自然環境、歴史遺構、サイクルファミリーパーク等）と連携し、公園、交通、防災といったまちづくりの視点も考慮します。また、競輪場が中心になって、「ひと」「まち」「自然」「文化」を繋ぎます。

競輪のみに限らず、スポーツ、自然、歴史、教育など多様なニーズを持った人々が集い、繋がり、公園としての機能を持ち合わせた未来へと歩む競輪場を目指し、再整備の基本方針を「PARK in KEIRIN -競輪場に公園の価値を創る-」とします。

多様なニーズを持った人々が集います

- ・ふれあいの生まれる空間
- ・日常生活での利用
- ・ピクニックやデートに
- ・自転車競技者の育成

ひと

- ・競輪選手
- ・競輪ファン
- ・スポーツ観戦
- ・自転車愛好家
- ・公園利用者など

まち

- ・閑静な住宅地
- ・都市公園
- ・都市計画道路
- ・サイクルファミリーパークなど

まちと連携します

- ・地域の価値向上
- ・健康維持・増進に寄与

PARK in KEIRIN
-競輪場に公園の価値を創る-

自然

- ・豊かな緑と水の自然環境
- ・貴重な生態系
- ・丘陵地の美しい自然など

文化

- ・歴史遺構
- ・自転車
- ・スポーツ
- ・レクリエーションなど

豊かな自然と触れ合います

- ・人といきものとの共存
- ・余剰地から生まれる新しい緑
- ・開放的で美しい自然景観

多様な活動を生み出します

- ・地域の文化活動での利用
- ・歴史や自然の体験学習
- ・自転車レッスン
- ・スポーツ教室

(2) 施設の整備方針

再整備の基本方針 「PARK in KEIRIN -競輪場に公園の価値を創る-」をもとに、施設の整備方針を3つ掲げます。

整備方針①

コンパクト化された施設

施設規模の最適化によって効率的な運営を実現

整備方針②

レース観戦を楽しめる施設

メインストリート沿いに観覧機能を集約し迫力あるレースを堪能

整備方針③

多様な来場者も楽しめる施設

コンパクト化によって生じるスペースを多目的に活用

7. 競輪場施設の整備計画 (案)

(I) メインスタンド棟の主な整備内容 (案)

- ①レース観戦・運営に適した設計
- ②施設をコンパクト化して機能を集約
- ③公園と一体化した開かれた競輪場
- ④競輪ファン以外にも楽しめる施設
- ⑤自然エネルギーの活用による環境配慮

階	面積	備考
3階	1,700㎡	競輪運営エリア
2階	1,700㎡	有料席 (一般154、ロイヤル14、グループ32)
1階	1,900㎡	無料席800 (固定席50)
地階	600㎡	競輪運営エリア
合計	5,900㎡	

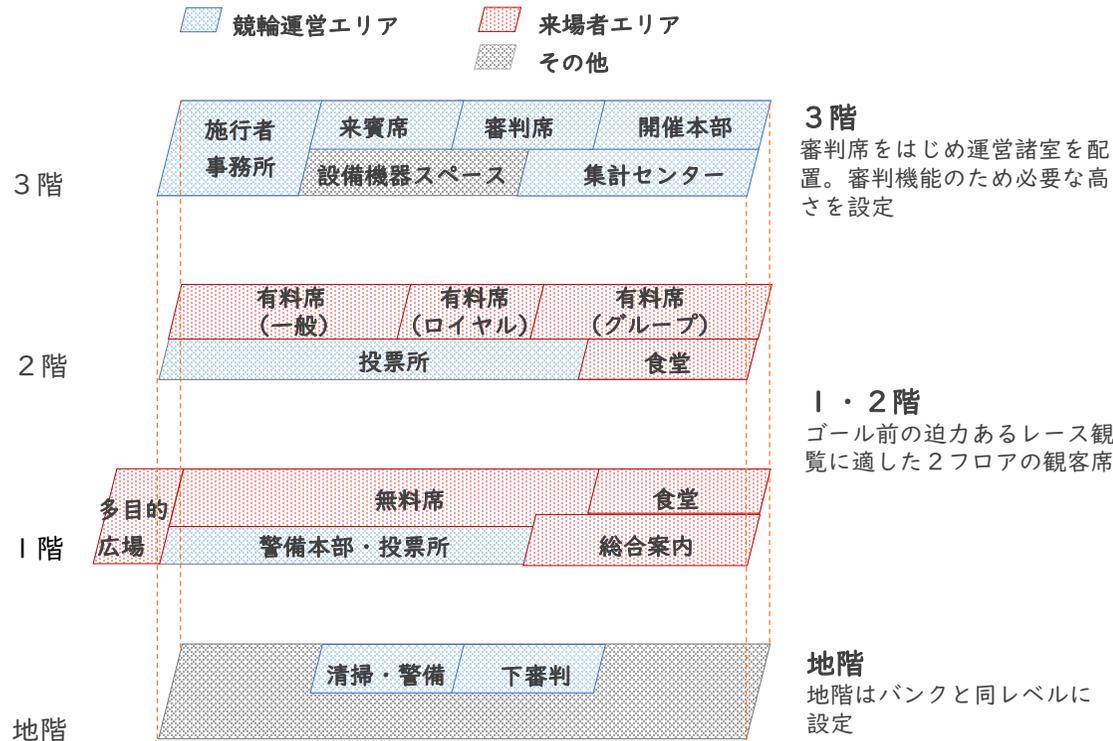
メインスタンド棟 面積表 (目標とする施設規模)

観覧席を区分し、充実したレース観戦機能を構築します。

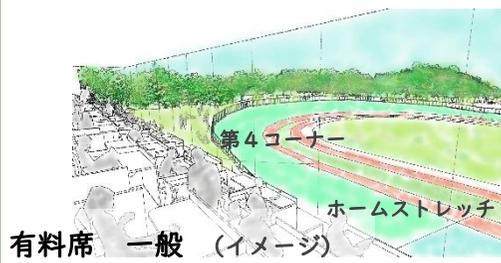


メインスタンド棟 (イメージ)

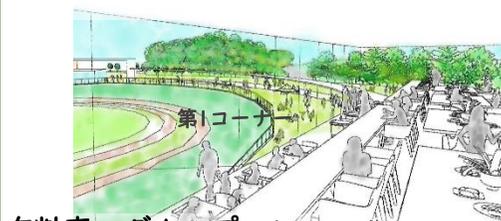
ゴール前で日差しの影響を受けない、快適なレース観戦環境を提供します。また、レース運営に必要な高さを設定します。



メインスタンド棟平面図 (図の上側がバンク)



有料席 一般 (イメージ)



有料席 グループ (イメージ)

自然エネルギーの活用



第三次久留米市環境基本計画及び久留米市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)に基づき、エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量の削減を図るため、太陽光発電などの自然エネルギーの活用を検討します。



太陽光発電

(2) 選手宿舎・管理棟の主な整備内容（案）

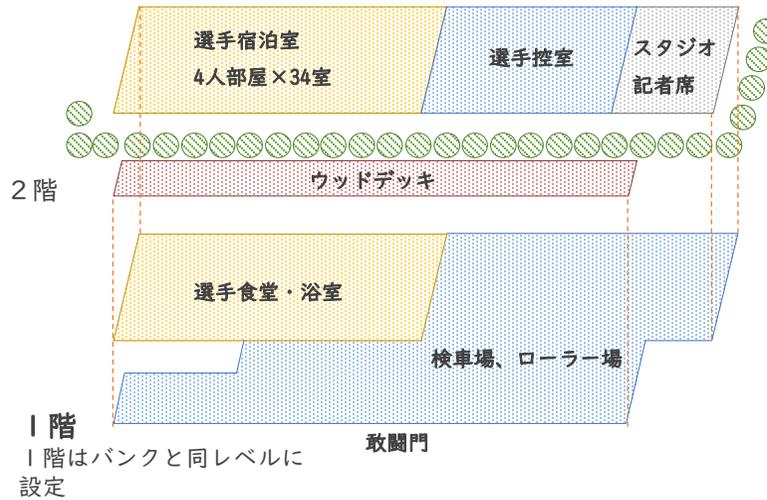
- ① 緑地帯を設けるなど、選手と来場者を分離して公正安全なレース運営
- ② 男女選手が快適に利用できる施設設計
- ③ 地元選手の育成に良好な練習環境を提供
- ④ 近隣住宅への日照に配慮した低層設計

階	面積	備考
2階	2, 100㎡	選手宿泊室、選手控室、スタジオ、記者席
1階	3, 200㎡	選手食堂、検車場、ローラー場など
合計	5, 300㎡	

選手宿舎・管理棟面積表（目標とする施設規模）

ウッドデッキは来場者が往来可能で、選手のプライバシーに配慮しながらも、入場する選手を間近で応援することができます。

- 選手管理エリア
- 選手宿泊エリア
- 緑地帯
- その他



選手宿舎・管理棟 平面図 (図の下側がバンク)

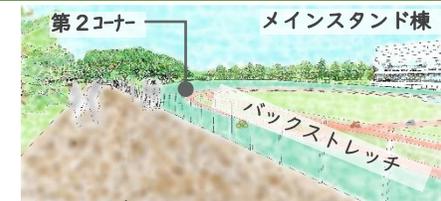
2フロアの構成で現在のバックスタンドよりも高さを抑え、近隣住宅への日照を確保



選手宿舎・管理棟 (イメージ)



第2コーナー付近からの眺め (イメージ)



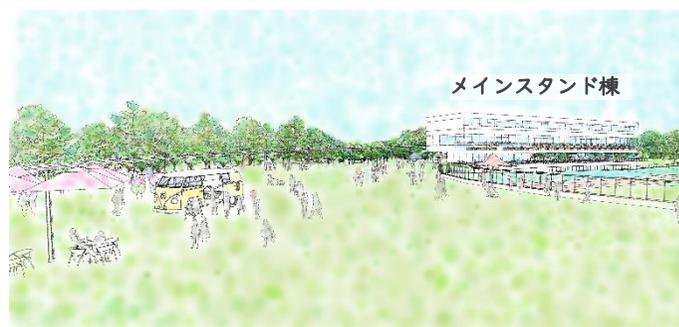
ウッドデッキからの眺め (イメージ)

(3) 芝生観覧スペースの主な整備内容（案）

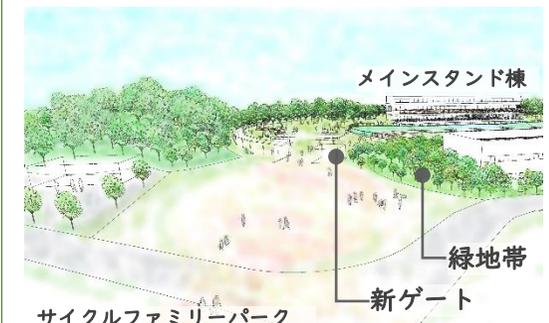
- ① 競輪ファン以外にも楽しめる様々なイベントを開催できる緑の空間
- ② サイクルファミリーパークに訪れた人が立ち寄りたくなるような緑の空間

芝生観覧スペースは、競輪の観覧スペースとしてはもちろん、市民の憩いの場として、多様なイベントを開催できます。

芝生観覧スペースのにぎわいがサイクルファミリーパークまで伝わる開放性の高い構成とします。



芝生観覧スペース (イメージ)



新ゲート北側エントランス広場 (イメージ)

多様なニーズへの対応例



キッチンカーを活用したイベントの様子 (大阪市)



ファミリールーム (高知競輪)



初心者コーナー (静岡競輪)

従来の競輪ファンのみではなく、新たなファン (若年層・女性・ファミリー) も楽しめる機能を配置します。

(4) 再整備による施設規模の縮減効果

施設規模 (延床面積)

現状: **25, 278㎡**

再整備後: $5, 900㎡ + 5, 300㎡ = 11, 200㎡$

[メインスタンド] [選手宿舎・管理棟]

再整備により **5.6%縮減**

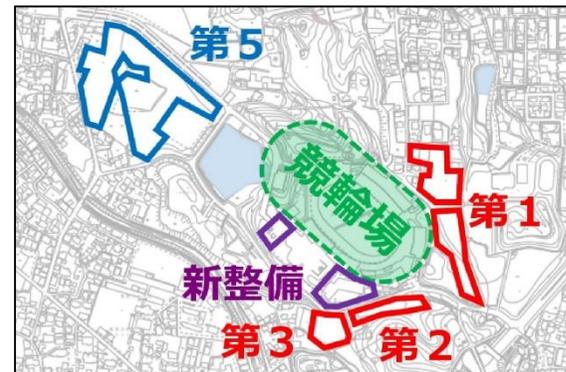
8. 駐車場の整備計画(案)

来場者数が縮小傾向にあり、将来的に現在の利用を大きく上回ることはない想定されることから、合計台数は現状を踏まえて1500台とする形で計画します。

(1) 駐車場計画台数(案)

		整備前		整備後	
			[台]		[台]
近距離の駐車場	第1駐車場	680	900	575	900
	第2駐車場	98		98	
	第3駐車場	110		110	
	新整備	-		117	
遠距離の駐車場	第5駐車場	785	600		
合計		1,673		1,500	

(2) 駐車場配置計画(案)



9. 整備費用・スケジュール(案)

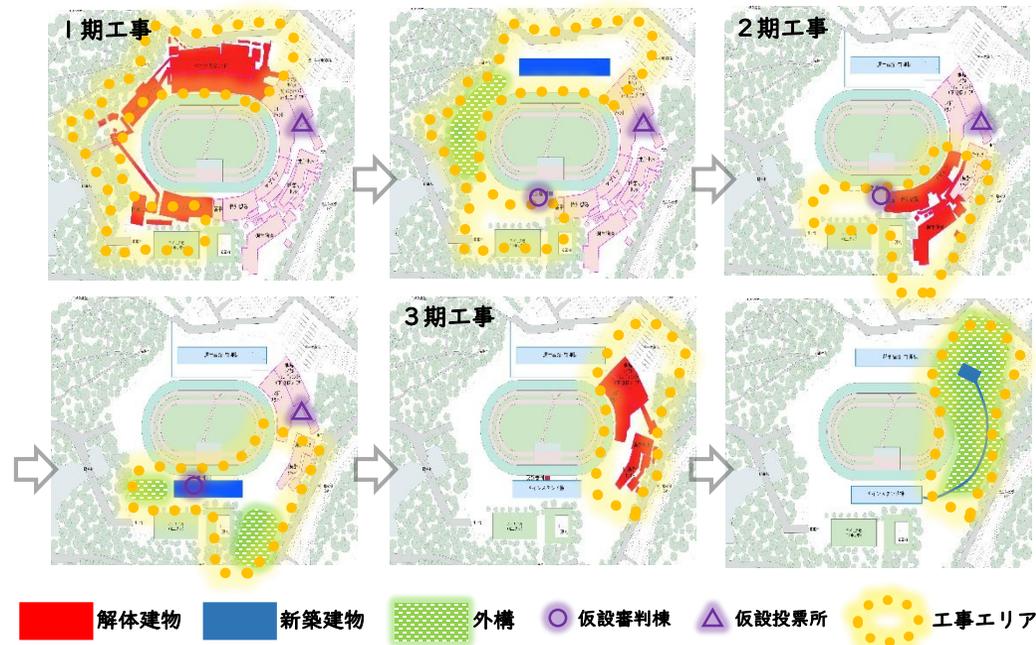
久留米市の一般会計へ安定且つ継続して貢献できるよう、市営競輪を開催しながら工事を実施します。

また、再整備に要する費用は、原則として競輪事業特別会計の基金から賄います。

(1) 主なスケジュール

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
調査設計 (2年)	■■■■■■					
1期工事 (1年4ヶ月)			■■■■■■			
2期工事 (1年4ヶ月)				■■■■■■		
3期工事 (1年2ヶ月)					■■■■■■	

(2) 工事のイメージ



(3) 再整備費用 (税込)

1期工事：31億円 2期工事：21億円 3期工事：13億円 概算総事業費：65億円

※久留米競輪場施設等改善基金積立額：33.9億円 (R3年度末時点)